

## 第二期武蔵野市スポーツ推進計画の指標設定について

### 1. 背景・課題

第二期武蔵野市スポーツ推進計画の指標をするにあたっては、策定委員会での意見、市のスポーツ実施状況、国の動向を踏まえると、次のような課題があるとわかっています。

#### (1) 策定委員会での意見

第6回の第二期武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）策定委員会において、根拠のない数値目標を掲げていることに違和感を覚える、数値目標だけではなく、各事業でどのくらい成果を上げて目標達成を目指すのかを示すと良いのではないかなどという意見を受けました。

#### (2) 国よりも高い成人の週1日以上スポーツ実施率

スポーツ分野の代表的な指標である「成人の週1日以上スポーツ実施率」について、市（68.4%）は国の目標（65%）よりも高くなっており、より豊かなスポーツ実施状況を目指すことができるポテンシャルがあります。

#### (3) 第3期スポーツ基本計画の策定にあたって求められているEBPMの観点

EBPM（Evidence-Based Policy Making、エビデンスに基づく政策立案）とは、政策の企画をその場限りのエピソードに頼るのではなく、政策目的を明確化したうえで合理的根拠（エビデンス）に基づくものとすることです。

政府全体がEBPMを推進する姿勢を見せる中、スポーツ分野においてもEBPMの取組が求められており、第3期スポーツ基本計画では、EBPMの観点からの数値目標の設定及び政策体系の整理が必要とされています。

### 2. 指標の設定にあたって

前述した背景・課題を受けて、第二期武蔵野市スポーツ推進計画の指標を設定するためには、以下のフレームによる作業が必要と考えます。ロジックモデルとは、ある事業、施策が最終的に目指す目的を達成するに至るまでの論理的な道筋を明示したものです。

#### 基本理念の実現に近い状態を示す中長期的なアウトカム指標を設定

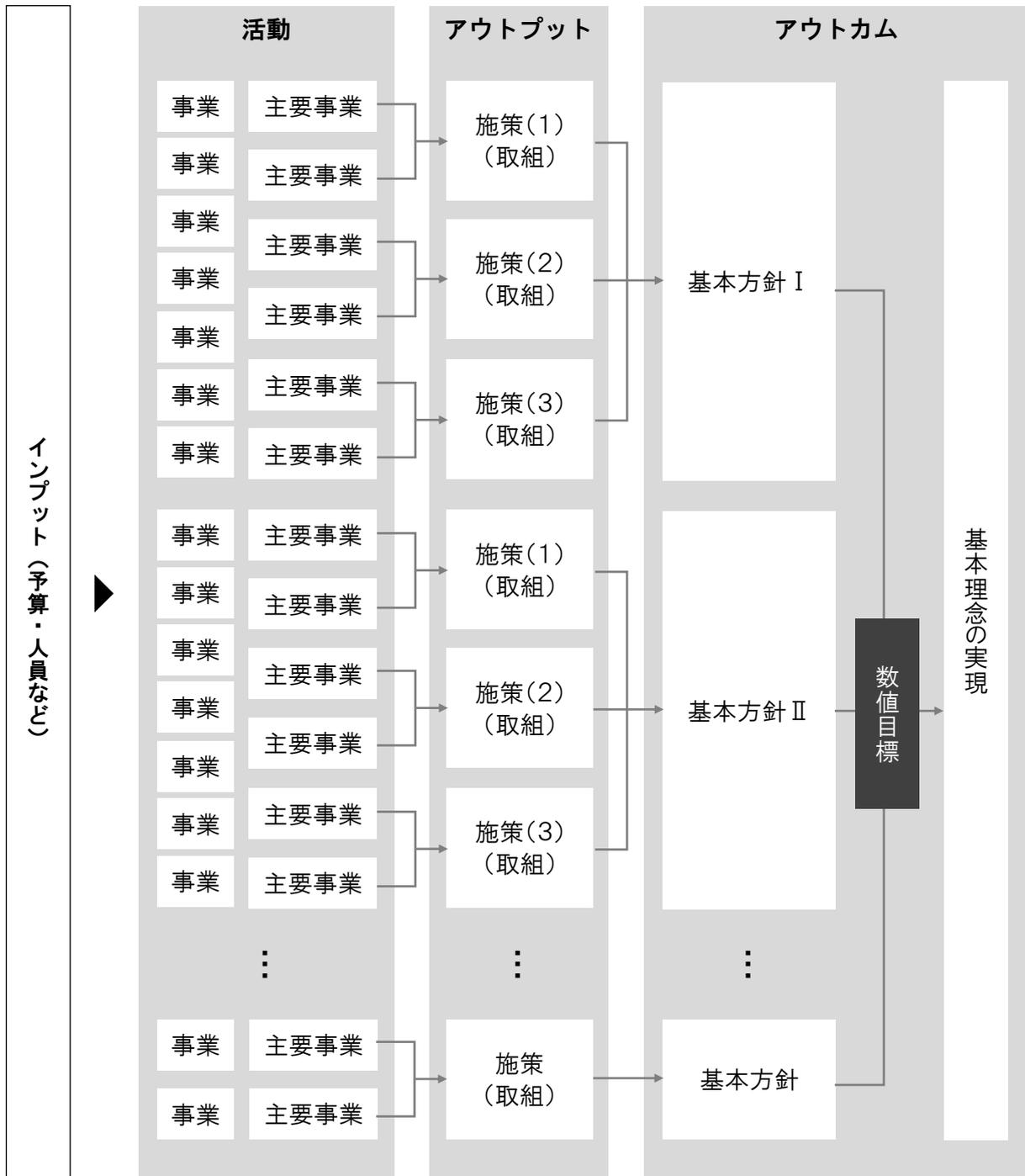
ロジック  
モデルの  
構築

①現状の計画の体系に基づく事業の整理

②各基本方針単位の主要な事業の選定

③主要な事業の中からアウトプット指標の設定

ロジックモデルのフレーム



(用語解説)

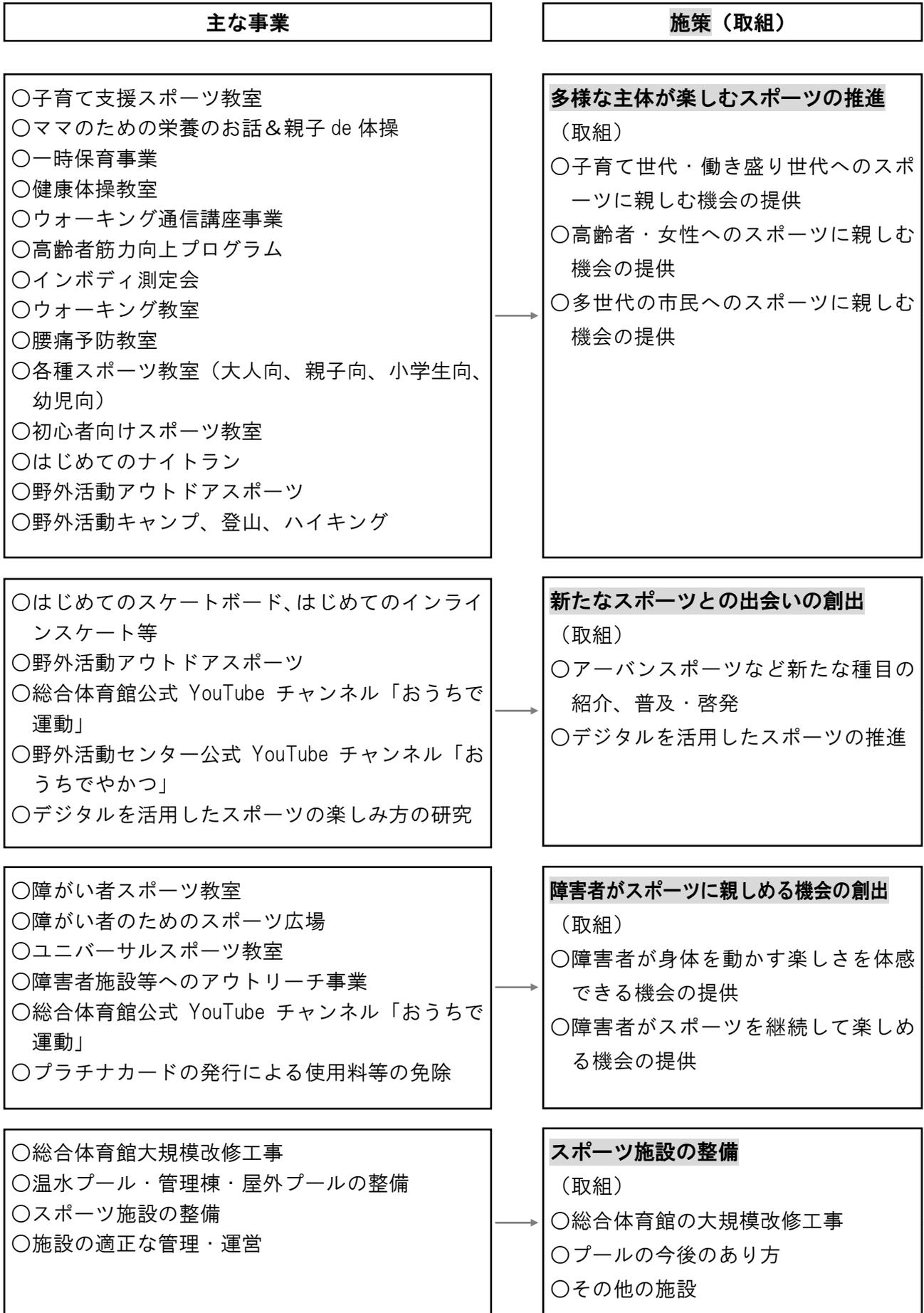
インプット..... 予算、人員など行政活動を実施するために投入する資源。

活動..... モノ、サービスを提供するために行う行政活動。

アウトプット..... 行政活動の結果、産み出されたモノ、サービス。

アウトカム..... 政策(施策、事業)が目指す成果(初期、中期、長期と段階あり)。

## 第二期武蔵野市スポーツ推進計画のロジックモデル



基本方針

数値目標

基本理念

I

誰もがスポーツ  
を楽しめる機会  
の創出

週1日以上の  
成人等のスポーツ実施率

【現状値】68.4%

【目標値】75.0%

II

障害者スポーツ  
の推進

週1日以上の  
障害者のスポーツ実施率

【現状値】不明

【目標値】40.0%

IV

スポーツに親し  
む環境づくり

総合体育館・温水プールの満足度

【現状値】 総合体育館2.93/4点

温水プール3.13/4点

【目標値】 総合体育館3.50/4点

温水プール3.50/4点

市民の誰もがスポーツを楽しみ豊かな生活を送り続けられる武蔵野市